

// 巻 頭 言 //

日本ライトハウス居宅支援センターてくてく
鶴見区障がい者相談支援センター
相談支援専門員 嶋田 彰

「嶋田さん、あれは大型免許で、今通り過ぎたのは大きな車体だけど普通免許でも運転できるんやで」

「えらい詳しいですね」

「今は生活保護やけど、実は昔トラックで全国を走り回っていたんや」

「へえ～。そうだったんですね。トラックの運転手も、なかなか結構な重労働ですよ」

「そうや。長距離になると荷積みも多くなるし結構しんどいで。でも、楽しかった・・・」

これは、私が関わっている方との車中での光景であるが、このような会話ができるまでに1年以上の月日と時間を費やした。私たちのような支援者や事業者、行政に対して「結局は、お前らは俺のことや家族のことなど真剣に考えていないんや！」と声を張りあげ怒鳴り、罵倒をし続け、その結果、事業者たちは彼から去ることを考えはじめる。まったくの悪循環を意図して、自分自身で作りあげているようにしか思えなかった。

そんな彼が突然、なぜ私に、あのような言葉をかけてきたのかを考えた。以前に「こんな、しんどいめをするのは俺だけで十分。もう終わり！」と語られたことを思い出した。その当時は、それほど気にもとめなかったが、今回の車中での言葉で繋がる。恐らく、自分が社会の一員として奮闘していた事実、目指すべき生活は知っている、しかし現状では家族や子の将来の見通しが立たない現実と不安感……。自分に障害があるとかないとかではなく、それ以前に夫として、親として、そしてひとりの人として、どう生きていこうとしているのかを「分かってくれ、知ってくれ！」という心の叫びだったのではと思う。

生活保護世帯の子が将来、生活保護を受給する確率が高くなるなど、現在の社会構造では貧困の連鎖は止まらないと言われている。彼はそうになってしまうことに終止符を打ちたいと考えているのではないだろうか。

もし私たちが存在するのであれば、私たちの存在する本当の意味を問わなければならない、と最近よく考える。大きな動きとして、障害者権利条約の批准や障害者差別解消法の施行、そして労働分野では障害者雇用促進法の改正、2018年度からは精神障害者の雇用義務化など、障害のある方々にとっては追い風になることは間違いないだろう。しかし、私たちは法律や制度、施策の仕組みの中で日々の支援を実践するだけが使命ではないはずで、もしそれで良いのであれば私たちは存在する意味がないとも考える。岡村重夫は、社会福祉は個人の自由や創意、ひとことでいえば個人の主体性を援助することを原則とし、個人の主体的存在性に注目する新しい社会福祉の概念を提起するものであると言っている。

私たちは、日々向き合っている方々の目の前の課題解決に尽力すると同時に、それこそが制度や施策、社会全体の課題であることを認識し、そして、その社会課題の解決に向けて創造的かつ具体的な働きかけをすることも使命であることを忘れてはならない。

私はもう一度、助手席に目を向けた。彼の横顔は、いつものような陰しさをなく穏やかであった。まるで、トラックのハンドルを握りしめ、必死に全国を駆け巡っている自身の姿を見つめるように……。

《インフォメーション グッズ》

ヒデボックス (ホワイト版/クリア版)

iPhone、iPadで書類読み上げアプリや書類などを撮影して読むときのお助けグッズ。A4サイズの書類ケースにすべてのパーツが収納、持ち運び便利。使用時は簡単にパーツを組み立てられます。ホワイト版とクリア版の2種類。
価格：ホワイト版1,600円(税込)、クリア版2,400円(税込)。外形寸法：
(収納時)縦約32cm×横約25cm×高さ約4cm、(組立時)縦約32cm×横約25cm×高さ約27cm。重量：ホワイト版430g、クリア版580g
問い合わせ先：日本ライトハウス情報文化センター TEL 06-6441-0039
販売元：生活協同組合おおさかパルコープ さざ波